

木材価格市況標準相場

令和8年9月3日

東京木材問屋協同組合
価格市況調査委員会

○今月の価格動向

- | | |
|-----------|----|
| (1) 値上げ品目 | 1 |
| 国産材構造材 | 1 |
| (2) 値下げ品目 | なし |

○今月の市況動向

8月の商況は、夏季休暇の影響により稼働日が少なかったこともあり、荷動きは低調だったとの声が多く聞かれた。先月同様、販売店や中小工務店向けの需要は弱含みで推移する一方、大手ビルダーやハウスメーカー向けは比較的堅調で、二極化が鮮明となっている。建築費の高騰が話題となる中、木材については原材料費や物流費など各種コストの上昇が、販売価格への転嫁は十分に進んでおらず、厳しい採算状況が続いている。

(国産材) 構造材では、価格改定に踏み切るメーカーが増える中、杉集成管柱が値上がり品目となった。その他の製品についても、今後需要が回復すれば、コスト上昇分の価格転嫁が徐々に進むものと思われる。

(輸入材) SPF材において、現地の生産調整が進む中、北米での需要が回復したため、9月積みのオファーが出てきていないとの報告もあった。米材製品では、輸入コストと国内相場の差が大きく、入荷減少が続いている。特に105角は欠品状況となっている。北洋材においては、さらに荷動きが鈍化して埠頭在庫が増加している。大手ビルダー向け製品の入荷が出てきていて、市場の在庫が把握しづらくなっているとの報告もあった。

(合板) 国内針葉樹合板では、生産量が出荷量を上回ったことから、在庫量は17.5万㎡と増加した。特に販売店ルートでの荷動きは低調で、堅調に推移するビルダー向けとは明暗が分かれる状況となっている。輸入合板においても、出荷量が減少する一方、7月の入荷量は19.4万㎡と増加しており、港湾在庫は増加傾向となっている。主要港の倉庫では満床状態が続いており、新規貨物の受け入れにも影響が出ている。